



京都社会人大学校

北近畿校通信

第67号 2025年12月

北近畿校運営委員会

事務局発行

☎080-2511-1751

2026年度講座も今月で終了です。
最後までじっくりお楽しみ下さい。
1年間ありがとうございました。また来年！！

おおきなトラブルなく今年の講座を終えようとしています（まだ今月は終了しないから油断したらアカンけど）。ご協力に感謝します。また、毎回「ひとこと感想」もたくさんお寄せいただき、運営上のアドバイスなどスタッフが気づかなかつた点も教えていただいたり、ありがとうございました。みなさまの感想は、講師の方々に

もお礼と共に伝えています。今後にお役立てていただいていると思います。

2026募集パンフレットは年末年始を挟んだ時期にご自宅に送付できる予定です。ぜひ、来年度も受講継続していただけるよう、みなさまの申し込みをお待ちしています。



11月の各講座の概要と、ひとこと感想から

（感想は一部を抜粋したものです。ご了承ください）



◆時事問題講座 11月11日

「異常気象は何が異常か」 講師：川邊昭治氏

改めて地球温暖化の影響により
我々の生活にじわじわと効いて
きている感じを
自覚させられた。

大変分かりやす
くおもしろかったです。気象学つ
てすごいですね。
地球学、宇宙学も
必要なんですね。

- I. 異常気象・気候変動の実態として、①異常気象とは、気象庁では原則として「ある場所（地域）・ある時期（週・月・季節）において30年間に1回以下の頻度で発生する現象」を異常気象としています。②何が異常か、日々の気温、降水量のほか、数日から数ヶ月の乾燥・干ばつ、積雪なども含みます。③今年の猛暑、夏（6月～8月）の平均気温の高い順位を更新した地点は132地点……41.8℃、群馬県高崎市、日本最高気温更新④「地球は沸騰している」国連事務総長談 ⑤世界と日本の実態
- II. その原因は何か ①温室効果ガス（CO₂）の増加 ②エルニーニョ現象、ラニーニャ現象の長期化など ③黒潮大蛇行。
以下結果として④ゲリラ豪雨（積乱雲ひとつでせいぜい40mm程度の降水量、それが連続して発生する） ⑤ゲリラ豪雨、地域・期間が予想されていることが多い ⑥深層海流
- III. 将來の見通し ①CO₂排出量…将来的CO₂排出量は人間の社会活動に依存する ②COP3、1997年国立京都国際会館で初めて温室効果ガス排出削減目標が提起されました。③日本の研究成果
- IV. 何をすべきか ①環境学習（子どもの時から） ②政治の課題 ③個人の生活改善
- V. 余談…太陽・地球の揺らぎ
- と順序だて分かり易くこの問題を講義いただきました。みなさん日頃から関心のある課題であり、熱心に聞き入っておられました。たくさんの質問もあり、丁寧な説明もいただきました。

データ収集、研究、将来予測など、命や社会生活が守られてこそ価打ちがあると思います。地球環境を守るために個人も社会も政治も日々の意識と努力が不可欠だと強く感じました。



◆寄席芸鑑賞講座 11月13日
「寄席についてのお話と落語を楽しむ」
講師:林家染雀氏

そもそも「寄席」とは、芸の寄せ集め。落語の他に、太神楽、漫才、漫談、手品、曲芸等(表の看板まね木に赤色で書かれているもの)色物。

通常寄席は、10席。最後の出番の「トリ」と、6番目の出番の「仲トリ」は、キャリアのある人(前の演者のネタと被らない演目にしなければならない為、持ちネタがたくさんある人が演る)。三番目の演者も、これに継ぐ重要な役割。間に「色物」が入るのは、気分を変える為の物。「仲入り」とは、休憩の事。他に「シバリ」「モタレ」等の業界用語も。

男性が演じる時、羽織を着ているのは礼儀。お客様に失礼のない様に…との意味。洋服で言うとジャケットの役割。演じる前に脱ぐのは、羽織は袖底が身頃と繋がっているため、演じる時に動作が、しにくい為。落語の本題に入る前の話「マクラ」とは、頭についているから…と言う洒落言葉。

と言う事で後半は、「子ほめ」と「掛け取り」を実践して貰いました。「子ほめ」は、ツッコミと、バラシの落語の典型的なパターンの話。「掛け取り」は、借金を抱えた夫婦が、義太夫、歌舞伎、狂歌等、あの手この手を使って借金の取り立てに来た人達を追い返してしまうと言う話。ハメ物、鳴り物の、入った(今回は、三扇さんの音源操作でしたが)中々聞く事の出来ない落語を迫力満点に演じて頂きました。流石です！



なんとなしに、落語を聞いて笑っていましたが、成りたちを詳しく教えて貰って本当に楽しかったです。来月の繁昌亭が楽しみです。



寄席の仕組みを楽しく聞かせて貰いました。私達が思っている以上に大変な仕事で、サラリーが少ないという話でしたが、本当はもっとたくさんの収入があるのだと思います。そして落後を二席、楽しく聞かせてもらいました。ありがとうございました。



◆写真講座 11月18日
「長安寺の紅葉」 講師:四方智基 氏

今年の紅葉はとても美しく、そして長く楽しめました。写真講座を始めて「長安寺の紅葉」のテーマは3回目か4回目ですが、今年が一番！です。しかしあ天気が…。座学を終えて撮影に出ようするとシャワシャワとしぐれ始め、もう撮影終了！という頃に晴れ間が出てきて…しかもとても寒い！先生が温かい飲み物を用意してくださっていました。ストーブまで持ち込んでいただき、運営委員が気づくべきですね…。

撮影は、傘を開いたり閉じたりしながら。色とりどりの紅葉に見とれながらも、思うような色合いで撮れているのか、チェックし調整しながら撮影を続けました。1時間やそこらでは足りない、あっという間の撮影タイムでした。

小雨の中でしたが、長安寺の美しい紅葉の中、バックの明るさに気を付けて撮影できました。あたたかい飲み物もありがとうございました。

雨模様でしたがそれもまた風情があって、いろいろな場面を楽しんで撮ることができました。長安寺のすばらしさをカメラを通して再認識することができました。

時間が短かった、再度撮影に来たい。



◆歴史講座 11月19日

「綾部市の近年の城郭調査について」

講師：廣富亮太氏

綾部市には中世城郭が多く、山城跡は約130か所もあるがほとんどは未調査である。一方近世城郭は少なく、遺跡になっているのは綾部陣屋跡（前期・後期）と山家陣屋跡、上林城跡のみとのこと。



その中で①綾部陣屋跡（後期）と②山家陣屋跡の説明があった。

①について— 1633年に初代綾部藩主九鬼隆季が築城し、陣屋なのに城郭風で御殿は現在の大本本部の長生殿が立っているところにあった。発掘調査は令和4年、6年に行われ、特に6年の調査では絵図にある側溝、土杭、池のような遺構や食器などの出土遺物も多数見つかったという。

②について— 1600年以前に谷衛友が築城し、陣屋であるが堀、土塁、石垣が見られ武家屋敷がそのまま残っていることでとても貴重な遺跡という。御殿や周辺の間取りを描いた絵図も現存し、御殿は明治4年の失火で焼失したが、令和元年以降の調査では井戸周辺の石敷きの確認や備前焼の完全な徳利が出土した。また2段の高石垣測量を実施するなど国史跡の指定に向けて調査は継続中。

陣屋とは天守閣を構えた城ではなく御殿のある規模の大きな屋敷のようなところのこと。

家系図の説明から時代背景の話もあり、時々の力関係や人の出入りなどを想像すると面白いなと思いました。

質問も志摩地方出身の九鬼水軍との関係などたくさんあり関心の高さが窺えました。

古地図や残されている図面などを駆使しながら、発掘調査による遺物や陶器などを紹介していただき、綾部の陣屋跡の当時を知る手がかりを知ることができました。

近年綾部資料館にて展示もあり、興味を持っています。中世→近世のことが分かると楽しい。明智光秀の丹波城攻めでぼろぼろにされた側になる→そのあと綾部藩、山家藩その他天領・旗本と入り乱れていたのが興味深い。中世・江戸時代の村落の暮らしぶり→今後、農民他庶民の暮らしぶりが分かると嬉しい。



◆北近畿探訪講座 11月28日

「六人部の地ビールを中心とした地域活性化の取り組み」 講師：森翔平氏

今回の探訪講座の訪問先は2018年に廃校となった旧中六人部小学校。この敷地と校舎を地域活性化の舞台として井上（株）が取り組みを始めたのがTHE610BASE。

リーダーの森さんに「教室」で概要説明を聞いた後、生まれ変わった施設を案内してもらいました。

「校庭」に建てられたイチゴハウス、「校長室」のビール工場など、なつかしさを覚えるとともに斬新なアイデアに受講生の皆さんも感心の様子でした。

六人部地域の住民が700人ほどの地域なのに、年間約2万人の来訪者があるというのも驚きでした。

スタッフの皆さんには地域活性化の一助にという熱い思いと同時に、あくまで会社の一部門であり、投資費用の回収も考えなければならないという現実もあると教えてもらいました。

質疑の時間でもたくさんの質問が出るなど、興味津々、楽しい探訪でした。

ビール工場の見学かと思っていましたが、地域おこしの立派な事業であることを見りました。

新しいことを始めていくことの高揚感が伝わってきた。なつかしさを感じる校舎跡のかもしだす空気も良かった。

森さん、お話を大変上手でした。スタッフは何人？ 福知山六人部にあくまで焦点化するのか？ 市外府外からの来訪者増をめざすのか？ 何故そう思ったのかというと、情報発信をもっと活発化した方がよいのに地味な感じがしたからです。綾部まで伝わってこない。HPも情報量が少ない、PRが少ないのでPRも情報量が少ない人が働いていて好感がもてた。



◆漢字学講座 11月27日

「漢字文化圏① 中華系・朝鮮半島編」 講師：久保裕之氏

・漢字文化圏とは…漢字に代表される漢文化（中国文化）を使用しているか、過去に使用していた地域。漢字の他に漢文や儒教などに由来する文化を共有。
狭義： 中国・台湾・日本・韓国北朝鮮・ベトナム

広義： マレーシア・シンガポールなど

・中華人民共和国（中国） 漢字規範制定の歴史

1949年 誕生当時 4億人民中識字率 20%・・ちなみに日本は 100%

1988年 「現代漢語常用字表」字数 3,500 字（知っていれば生活ができる）

2013年 「通用規範漢字表」字数 8,105 字

・中華民国（台湾） 漢字規範制定の歴史

1982年 「常用国字標準字体表」 字数 4,808 字

2002年 教育部『異体字辞典』 字数 29,921 字

・中国、台湾で違う漢字

日本語	中国	台湾
水準	水平	水準
トランプ（人名）	特勞普	川普

・朝鮮半島における漢字使用の歴史

3~4世紀・・漢文を用いて文章を書く（中国と陸続きなので日本より早く漢字が入った）

15世紀・・世宗大王によるハングルができ、漢字学習に困難な庶民用となる。

日本統治時代・・朝鮮語教育が正規科目から隨意科目へ。使用禁止ではなく、新聞は発行された。

現代は漢字が使われなくなっている。「漢字がわかると就職できる」 東亜日報

・北朝鮮での漢字政策

1949年 朝鮮臨時人民委員会 漢字廃止

◎現代の生活では使用しないが、民族の歴史文化を知り、南朝鮮や近隣諸国との科学・文化・経済交流のために学ぶ。

・韓・日・中の漢字語

韓国語	日本語	中国語
鉄道（チョルド）	鉄道（テツドウ）	铁路（ティエルウ）
美国（ミーグク）	米国（ベイコク）	美国（メイクオ）

隣国ながら漢字文化の違い…奥深い。大変難しかったですが、面白い講座でした。



人が旅をするように漢字も様々な国に広がり変化したり、(また、させられたり)しながら存在していることが分かりました。スライド等、今の漢字文化の様子がよくわかり興味深かったです。

何々？？ 漢字の変化についていけず。ハングルと日本語の読み書き(発音)。中国語、韓国と北朝鮮とか歴史を深く学ぶ必要があるのでしょうか～。ゆっくりそんな歴史も学んでみたいです。

良い年末年始をお過ごしください

